







**総会・懇談会の  
スナップをどうぞ!!**


**平成24年度 東京四極会活動報告**

H24年		
4月	1日	「東京四極だより」第61号発刊(会報通算122号)
4月	8日	第54回「たまには歩こう会」(東京都内の庭園散歩) 参加者12名
4月	9日	第16回「東京四極会杯」ゴルフコンペ(御殿場・富士カントリークラブ) 参加者11名
5月	19日	東京四極囲碁会(赤坂囲碁ラウンジ) 参加者14名
5月	21日	監事による監査
6月	2日	平成24年理事会(新日鐵・代々木倶楽部) H23年度活動報告・決算案並びにH24年度予算案審議 出席理事15名
6月	5日	平成24年定時総会(新日鐵・代々木倶楽部) 参加者51名
6月	30日	第9回四極会理事会、第4回評議員会・支部長会議(大分) 姫野理事長出席
7月	15日	第55回「たまには歩こう会」(霧ヶ峰・車山高原) 参加者15名
8月	6日	若年会員の集い(ニュートーキョー・田町店) 参加者11名
8月	25日	東京四極囲碁会(赤坂囲碁ラウンジ) 参加者12名
9月	1日	「東京四極だより」62号発刊(会報通算123号)
9月	21日	第17回「東京四極会杯」ゴルフコンペ(取手桜ヶ丘ゴルフクラブ) 参加者8名
9月	28日	四極会と大学との懇談会(大分) 姫野理事長出席
10月	23日	第56回「たまには歩こう会」(昇仙峡と板敷溪谷ハイキング) 参加者7名
12月	15日	東京四極囲碁会 合宿(湯河原たつみ荘) 参加者9名
H25年		
2月	2日	東京四極会新年会(新日鐵・代々木倶楽部) 参加者55名
2月	9日	平成25年「たまには歩こう会」新年会(赤坂月世界ビル月の市場) 参加者16名
3月	9日	第57回「たまには歩こう会」(大高取山から越生梅林) 参加者13名
3月	12日	第10回四極会理事会(大分) 姫野理事長出席
3月	16日	東京四極囲碁会(赤坂囲碁ラウンジ) 参加者11名



**平成24年度収支決算 & 平成25年度収支予算**

<平成25年3月31日>

(単位:円)

区分	費目	24予算	24決算	決算差額	25予算
収入の部	(1) 経常収入(年会会費)	1,372,500	1,305,000	△67,500	1,350,000
	<会費納入者数>	<305名>	<290名>		<300名>
	(2) 事業収入(総会会費他)	660,000	680,000	20,000	660,000
	(3) その他(受取利息)	300	222	△78	300
	収入合計	2,032,800	1,985,222	△47,578	2,010,300
支出の部	(1) 事業活動費(総会費他)	1,280,000	1,307,058	27,058	1,200,000
	(2) 本部関係(支部分担金)	350,000	350,000	0	350,000
	(3) 運営費(人件費他)	460,000	431,081	△28,919	433,000
	支出合計	2,090,000	2,088,139	△1,861	1,983,000
余剰金	差引本年度 剰余金	△57,200	△102,917	△45,717	27,300
	前年度 繰越金	1,445,489	1,445,489	0	1,342,572
	期末未処分剰余金	1,388,289	1,342,572	△45,717	1,369,872

◎平成24年度末 財産目録(単位:円)

◇一般会計合計残高 1,342,572  
 ◇募金会計残高 7,182,614  
 合計 8,525,186

◎監査報告

監事 葛城 征志  
 監事 西山 喜代美



# 大高取山から越生梅林

(第57回歩こう会)

ここ数日急に春めいて、梅の花も一気に満開になって来た3月9日(土)、梅見を兼ねて、埼玉の越生にある低山(標高376m)大高取山に登り、越生梅林に降りるコースを探索した。

快晴に恵まれた当日午前9時半、東武越生線越生駅に13名のメンバーが集結、挨拶と準備運動もそこそこ早速大高取山目指して出発した。

越生駅から西に進み車道を横切ると直ぐに法恩寺に突き当たる。天平10年に、僧行基を開祖として創建されたという古い寺で、現在は真言宗智山派に属している。本尊は大日如来で越生七福神の内恵比寿を祀っている。

本日の安全を祈願し、山門を出て左折、寺を巻くようにして車道を登って行くと左手に越生神社が現れた。以前は琴平宮であったが明治42年に八坂神社など周辺の神社を合祀して越生神社となったもので須佐之男命と千頭天王を祀っている。神社を後に坂を登ると、

素晴らしく越生の街のみならず関東平野が見渡せる。この先は山道となり、傾斜はそれほど急ではないが木の根なども出ており、やや歩きづらい。檜林になっており、ところどころ木々の合間に越生の街が見下ろせた。11時半ごろに西山高取に着。

一端山道を下り、登り返して尾根道を行く。途中樹木の間から空かして見るとスギ花粉が黄砂か?全体に黄ばんだ霧が立ち込めていた。途中幕岩と呼ばれる景勝地への道を左に分け、西山高取から30分程で桂木観音への分岐に着いた。杉林の中で広場になっており、ベンチも幾つか置かれていた。

ここから桂木観音への道を左に分け、わずから5分程で大高取山の山頂(676.4m)。

樹林の中で狭くまた展望も望めないが山頂表示と三角点があり、ここで休憩しているグループもあった。一行は立ち止まることなく越生梅林を目指して山頂を後にした。



丸太の階段を

下って左手に道を探ると、円通寺に到着。ここは曹洞宗の寺で越生七福神の内「寿老人」を祀っている。ここから100mほど先に自然休養村があり、途中の道の左右は梅の畑になっていて満開の梅からかぐわしい香りが漂っていた。またこの辺り一帯は柚子の産地で、季節遅れだが黄色い実を付けた柚子の木を見ることが出来た。自然休養村には、休憩所が売っており、コーヒードも頼める。梅林小学校の脇を抜けて道灌橋という小さな木の橋を渡った直ぐ先に建康寺という小さな無住の寺があった。

この辺りに隠居していた大田道灌の父道真が道灌の死を悼んで建康寺を建て菩提を弔ったという。境内には紅白の梅がひっそりと咲いていた。

つぎに越生七福神の内「福祿寿」を祀っている真言宗の寺で紅梅・白梅が美しいという最勝寺に向かって車道を歩く。人も大勢歩いていて、民家の庭が臨時駐車場になっていた。混雑にまぎれていつのまにか道の左側に有るはずの最勝寺を見逃して通り過ぎ、さらに近くに有る梅園神社(旧小杉天神社)スタジイ林が埼玉県指定の天然記念物になっている)もスキップ。臨時の入り口から越

3月の梅に続いて、第58回例会は桜を訪ねる尾根道散策を企画した。当初、4月6日(土)を予定していたが6日〜7日が悪天候になったため、8日(月)に延期、直前の変更となったためか、参加者が半減して5名となった。

## 奥多摩旧街道・浅間尾根

(第58回歩こう会)

生梅林に入場(入園料200円)2ヘクタールの敷地に樹齢600年の古木など千本の梅が植えられており、折しも梅まつりの期間とあって、農産物や土産物を扱う売店なども出ていた。一同揃っての記念撮影。梅の外にもまんさくやさんしゅゆなどが黄色い花をつけ、樹下には福寿草も見られた。梅まつりを堪能した後、川越観光バスにて越生駅に戻り、解散となった。参加者(坂井大和・恭子、戸次笛子、小野二六・和江、江藤浩一、葛城征志、加志田智久、松永幸一、姫野易之、田中典明、山下政晴、梅谷寛雄以上13名)敬称略)

この道は右に見送りしばらく行くと崩落しているところがあり、迂回路の指示に従って木道を進む。やがてカタクリの花が群生しているところがあり、花を踏まないよう注意して一休み。間もなく「浅間嶺」と「浅間嶺休憩所」の分岐が出て来たので左手の「浅間嶺」を目指す。開けた路をしばらく歩いたが、それらしく地点が分らず、そのうち、またまた休憩所の表示が出て来たのでそちらへむかった。先ほど別れた道と合流してすぐに広場に出た。屋根つきの休憩所の外、テーブルとベンチがあり、数人の人が休んでいた。やまざくらがちらほらと咲いている。この先の斜面を登った所が浅間嶺展望台。浅間嶺の表示があり、山頂と間違えやすい。そこ

村の浅間尾根登山口で下車。バス停から50mほど戻り、南秋川橋を渡って「浅間の湯」の看板を過ぎ車道を歩く。かなり勾配がきつく歩き初めには少々こたえる登りだ。「浅間の湯」でペットボトルの水を補充。「浅間の湯」を過ぎると間もなく本格的な山道になった。杉林の中をジグザグに登って行く。体を慣らすため、

の淡々とした道で、若干



には三頭山・御前山・鉾尾根・大岳山等の展望が開け、南には笹尾根越しに真っ白な雪をかぶった富士山が望めた。ここで屋食休憩。例によって田中典明さんがバーナーを点火して、魚やソーセージ等を焼き、皆に振舞ってくれた。日本酒や焼酎も出され、ちょっとした宴会となった。

屋食にたっぷり時間を執ったので、下山に掛ったのは午後2時過ぎと。展望台から時坂峠を目指しふかふかの落ち葉を踏んで緩やかに下って行くと、やがて急な下りとなり、石混じりの足場の悪い道となる。峠の茶屋まで下ると舗装道路となった。ここからは北側に御前山を見る事が出来る。茶屋から典明・時子・松永政弘・梅谷寛雄以上5名。

### 谷根千(日暮里)谷中(根津千駄木)を探訪(第59回歩こう会)

5月11日(土)は生憎の悪天候であったが、都内の街歩きなので、延期せずに実施した。午前9時、日暮里駅南口に集合したメンバーは11名。駅を出てすぐのもみじ坂を登ると左手に天王寺がある。江戸時代に幕府の政策で日蓮宗から現在の天台宗に改宗させられたところで、毘沙門天を祀る他、境内には釈迦如来の大仏が鎮座している。天王寺から桜並木の車道へ出てしばらく歩き、天王寺駐在所を右折。300m程先の突き当たりが観音寺の築地塀で、ここは数年前、台東区まちかど賞に選ばれたそうだ。観音寺の路地を挟んだ隣が長安寺。臨済宗妙心寺派の禅寺で寿老人を祀っている。明治初期の日本画家・狩野芳崖の墓がある。長安寺を出て細い車道を右に進む。左手に笠森稲荷が移設されている功德林寺を見送り、大きな通りを辿りつく、左手角にパイン屋がある。この通りが三崎坂で右折して坂を下る。石屋の先に臨済宗国泰寺派の禅寺・全生庵がある。山岡鉄舟の発願で維新の戦没者を祀っている。山岡鉄舟や三遊亭円朝の墓があり、円朝の幽霊画のコレクションがある。境内を掃除していた小父さんが本堂の由来を説明してくれた。本堂の左手は日蓮上人を祀る。右手は瘡守稲荷を祀るが、明治初期の廃仏毀釈によって稲荷は薬王院とされたという。又境内の中央に大きな木があって、木ささげと云い、利尿作用のあるマメ科の実がなるこの話であった。10月には寺の境内と周辺で谷中菊祭りが開催され、菊人形等も飾られるようだ。

少し戻って小学校の交差点を渡り、坂を登って行くと5分ほどで大名時計博物館に着く。ここは陶芸家・上口愚朗が収集した大名時計を旧勝山藩の下屋敷跡に昭和26年に展示し始めたもので、庭は草が生い茂り、建物も長年手入れをせずに、思いのほか小さな博物館でした。江戸時代の大名が持っていた和時計が数十点展示されていたが、併せて愚朗師の陶器が展示されており、愚朗老人と付き合いの深かった棟方志功の手書きの上絵の皿もあった。大名時計博物館を出て少し戻り、あかじ坂を下って10分程歩いたところが不忍通りの根津神社入り口の交差点。信号を渡った先の右手が根津神社の表参道入口である。根津神社は今から1900年以上

前に大和武尊が創祀したと伝えられており、元禄時代に5代将軍徳川綱吉が現在地に移築したという。権現作りの建造物で社殿7棟が重文指定となっている。参拝を済ませ、北参道へ廻ったが、名物の「根津たい焼き」へ寄りたいたの声があつて時計回りでひと巡り。不忍通りへ出て少し戻り、行列の後ろに並ぶ、お代は1個140円也。皆さん、その場でアツアツをパクリ。お隣は「八重垣せんべい」、ここでも手土産を求める人あり。

ここから不忍通りを北上して千駄木通り商店街を抜けて行く。千駄木駅の手前を左折して、団子坂を登って行く。5分ほどで左手に隅外記念館の入り口がある。この建物は森隅外が人生後半を過ごした「観潮楼跡」で昨年リニューアルオープンしたものである。図書館が併設されている。入館料500円(普段は300円だが、この日は特別展示「隅外の見た風景」東京眼図を歩く」開催中のため)を支払って2階へ上がる。隅外の生涯と業績が時系列に展示されている。隅外の監修による東京方眼図が拡大されて床に描かれていた。一階に降りるとカフェがあり、その手前には左手に小部屋があって隅外関連のDVDが放映されていた。記念館を出たら雨足が強まっていて、坂井さんのご案内で中華レストラン「三天天・本館」へ立ち寄った。定食AとBをMIXして貰い、ビールと紹興酒で懇談。ここが本日の締めくくり場所と決まった。各自思い思いの交通手段で帰路に就いたが、幹事と数名の方々が日暮里まで行くことになって、不忍通りの一つ東寄りの(よみせ通り商業会)通りを北上する。日暮里駅方面の表示を見て、右に道を探り下町の色濃い谷中銀座の商店街を抜けて夕焼けだんだんの坂を登り、「月見寺」の愛称がある「本行寺」を左に分けてまた坂を下る。雨の中、スケデュールは大幅に変わったがそれなりに楽しい一日となった。参加者(生田陽代・葛城征志・坂井大和・恭子・竹上英文・姫野易之・松浦靖弘・松岡幸秀・美知子・松永幸一・梅谷寛雄)以上11名。

### 東京四極会春の懇親ゴルフ

4月8日(月)例の通り富士カントリークラブ(御殿場市)で開催、11名の青年が満開の桜の下決戦の予定でしたが、少し多くの会員の参加が参加されれば、更に意気が上がると思います。ぜひ参加をお願いします。

優勝：田中五郎  
2位：守谷一誠  
3位：高橋信行  
ベストクロス賞：佐藤勝峰(82) ニアピン賞 友永英一、高橋信行、佐藤勝峰



- 参加者：田中五郎(第30回) 池田郁三(第35回) 平塚喬(第35回) 江藤浩一(第38回) 友永英一(第40回) 守谷一誠(第40回) 中川鐵一(第40回) 高橋信行(第44回) 姫野易之(第44回) 佐藤勝峰(第45回) 山下政晴(第48回)
- 田中 敏治(第38回)  
平成25年1月31日  
高田 正晴(第38回)  
平成25年2月23日

謹んでお悔やみ  
申し上げます  
(敬称略)